

尾形尚子基金レクチャー報告

中島 信博

東北大学大学院教育学研究科

今回は英国ラフバラ大学のイアン・ヘンリー教授をお招きし、「スポーツのヨーロッパモデル：EUにおけるガバナンス、組織的变化とスポーツ政策」と題して講義をしていただいた。日本への招聘は一橋大学が行ったこともあり、同大学の内海和雄氏も同席されたうえ、丁寧なインタープリターとしての役割も果たしていただいた。

ヘンリー教授はヨーロッパのスポーツ政策を俯瞰したうえで、主要には類型論を展開され、これによってマクロな動向をとらえようとしたといえる。特に興味深かったのは、分権化・集権化の軸と、持続可能性・競争性の軸をクロスさせて、4象限に分けて諸国家の政策を分類したことである。ひるがえって日本の状況を考えると、国家的なセクターが伝統的に支配的な形態から、民間セクターが拡大し、近年はボランタリー・セクターが熱を帯びてきている（ないしは期待が膨らんできている）というような見方もでき、こうした質疑応答も興味深かった。

総じて、各国の政策のありようには、各国の歴史的背景が色濃く投影されていて多様である。しかし、それと同時に、4つのセクターのバランスをとりながら、ガバナンスの有り様も模索されており、将来を考えていくうえで大いに参考となったと思われる。

学生たちは講義のあとも、英国や欧州の実情について、スポーツに限定しないでフランクな質疑を行い、ヘンリー教授や内海教授から最新の動向を説明され、関心を深めたことがうかがわれた。